



鶴ヶ島市の子どもを取り巻く環境は

持田 敏明 議員



学校や地域など、多くの方が一生懸命支えている

問 本市におけるいじめの現状は。平成28年度と27年度の認知件数を比較すると、小学校で191件、中学校で33件増加している。増加要因は、いじめに発展しそうな案件もいじめと認知した結果と捉えている。早期発見が大切であり、教師はアンテナを高くし、子ども達の出すサインを見逃さないように努めている。

答 不登校の児童・生徒の環境は。28年度の不登校の児童・生徒数は、小学校で13人、中学校で63人である。主な要因は、無気力や情緒混乱といった本人の状況、友人関係や学業不振といった学校生活上の状況があり、親子関係といった家庭の状況等もある。一人ひとりが抱える課題を把握し、きめ細かく支援していく。

問 就学支援の現状について。28年度の就学援助の認定児童・生徒数は、775人である。30年度入学に係る新入学準備費から、入学前の3月に支給を前倒しすることとした。

問 全国学力・学習状況調査の結果について。

答 今年度は、小・中学校ともに全国平均正答率を下回った。分析を進め、教職員の指導力の向上を図り、充実した授業が展開されるよう各学校への指導助言に努める。



来年度予算編成の視点と提言について

高田 克彦 議員



安心して・元気に暮らせるまちづくりを更に前進させる

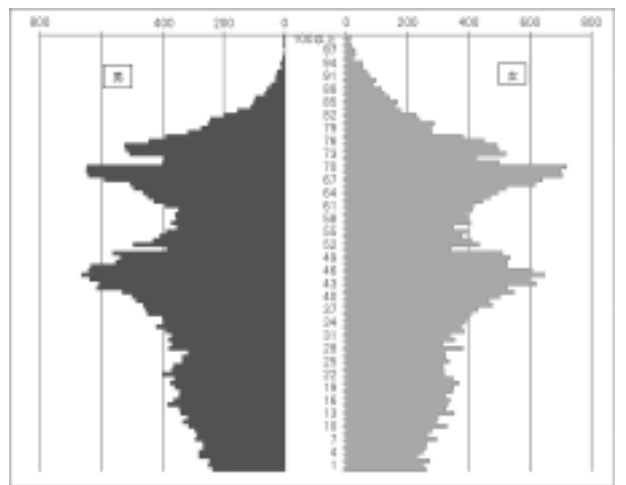
問 30年度の予算編成に係る庁内通知である市長名の「編成方針」と総合政策部長名の「留意事項」とのタイムラグについて。

答 予算編成は、市長の予算編成方針に基づき行うが、本年は前市長の退任という形での市長選挙となった。このため、9月26日に予

算編成作業の基本事項を示した留意事項を先行して通知し、新市長就任直後の11月6日に市長の意向を踏まえた編成方針を通知した。

問 市長当選に当たったの決意と30年度の予算編成方針は。

答 予算編成方針では、本市の課題に適切に対応し、将来に向かっ



本市の人口ピラミッド

て安定した市政運営を行うことを最重要課題とした。市長選挙に際し、まちづくりの方向性として掲げた「安心して暮らせるまちづくり」及び「元気で暮らせるまちづくり」を更に前進させるための予算編成を進める。

問 「留意事項」は、職員と市民のモチベーションを下げるものではないか。

答 一時的に費用負担が生じて、結果として投資を超える本市の魅力の向上や政策効果の発現につながる事業などには積極的に取り組むよう求めている。

◎**その他の質問** 第7期介護保険事業計画について